

## 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」 布の製作と利用に関する総合的研究

期間：2019年～

[所員] 昆 政明 内田青蔵 大川 啓 小熊 誠 木下直之 佐野賢治 後田多敦  
周 星 須崎文代 角南聡一郎 関口博巨 泉水英計 高城 玲 平井 誠  
廣田律子 前田禎彦 丸山泰明 安室 知 山本志乃  
[客員研究員] 刈田 均

### 共同展開催に関する資料調査と資料の受け入れ

昆 政明

布は人の生活にとって欠くことのできないものである。さまざまな材料から糸が紡がれ、布に織られてきた。本研究はさまざまな材質の糸が布となり、それがどのように利用されたかを総合的に研究する。利用の中心は衣類である。衣類に使用される布は時代や地域、使用階層、使用目的によって変化する。また、布の利用は衣類以外にも多岐にわたっており、使用目的によって必要とされる素材も変化する。本研究は素材による布の性質の違いが、その利用にどのような影響を与えたかを、総合的にとらえることを目的としたものである。

今年度は新型コロナウイルス流行の継続により、当初予定されていたオリンピック関連企画展の1年繰り延べに対応した活動が中心となった。この特別展は日本常民文化研究所と横浜市歴史博物館との共同展で、昨年度に引き続いて特別展のテーマに沿った調査活動を行った。特別展では木綿普及以前の衣服を中心に展示する計画であったため、木綿以外の自然素材、特に麻布を中心に調査を行ってきた。麻布の場合保温と強度を高めるために刺し子の技術が施される例が多く、各地域に特徴的な刺し子が製作されてきた。地域によっては綿布の普及が進み、これらにも刺し子が施され

ていた。調査の結果、本特別展の中心は福島県会津地方、米沢市、青森県の教育委員会、博物館所蔵の資料とし、展示資料の選定および展示図録掲載用の資料撮影を行った。調査の進展に合わせて展示内容の精査を行い、調査出張が困難な中、各教育委員会、博物館、関係機関の理解のもとに、資料の事前借用による展示資料の精査、資料の精密撮影等を行うことが出来た。また、渡部聖（つとむ）氏所蔵で、福島県立博物館に寄託されている北日本の刺し子コレクション「渡部つとむコレク



写真1 さまざまな素材から織られた布



写真2 渡部つとむコレクションの点検作業



写真3 庄内刺し子（渡部つとむコレクション）



写真4 麻布に紺の型染め（渡部つとむコレクション）

ション」を3カ年計画で譲渡して頂けることになり、今年度分271点を受領した。なお、「渡部つとむコレクション」は会津民俗館の前館長渡部聖氏が収集した、北日本の仕事着を中心とするコレクションである。その内容は新潟県から会津地方、庄内刺し子を中心とする山形県、秋田県、青森県の津軽こぎん刺し、南部菱刺し、さらにはアイヌ民族の衣服のアットゥシおよび装飾品を含んでおり総数は1,200点を超えている。搬出に当たっては福島県立博物館のご協力を頂き、現在横浜キャンパス3号館の地下2階に収蔵されている。一部は2021年度に開催される「布 美しき日本の手仕事」に展示されることになっている。また、みなとみらいキャンパス内で共同展開催期間にあわせたパネル展示への利用を考えている。

ただ、当初予定していた本学における講座、勉強会等の実施は一部を除き中止となり、共同展への準備作業が、事業の中心となった。これらの事業は、次年度に受け入れ資料の整理とともに、共同展終了後の開催を考えている。

## ■ 2020年度の活動

- 原始布・古代織参考館 原始布織工房・出羽の織座主催「愛（藍）と苧麻（からむし）展——人と自然をつなぐもの——」展覧会見学 2020年7月20日・21日 東京交通会館 加藤友子・窪田涼子
- 北日本の仕事着を中心とした衣生活資料の調査 2020年8月12日 会津民俗館 昆政明・安室知
- 共催展示「布 うつくしき日本の手仕事」実行委員会 2020年9月10日 横浜市歴史博物館 昆政明・安室知
- 共催展示図録に掲載する撮影資料の借用 2020年12月21日～22日 青森市文化財資料等収蔵庫（旧戸門小学校） 加藤友子・窪田涼子（資料委員会の調査も兼ねる）
- 共催展示図録に掲載する撮影資料の返却 2021年3月30日 青森市文化財資料等収蔵庫（旧戸門小学校） 越智信也・窪田涼子